

取組の柱②：インド太平洋流の課題対処

事例⑫：アフリカにおけるエネルギー安全保障への対応

1. 基本的な考え方

- 世界全体に占めるアフリカからのエネルギー供給率は上昇傾向。ウクライナ情勢を受け、露の代替供給源としての重要性が高まっている。（世界の天然ガスの全資源量の約13%、石油の全資源量の約7%が埋蔵）
- LNGは安定供給とカーボンニュートラル実現に向けたトランジションエネルギーとして必要不可欠。
- この点、モザンビークのLNGプロジェクトは、同国の経済発展に不可欠であることに加え、欧州へのLNG供給と年間約450万トンの日本へのLNG供給を予定しており、日本のエネルギー安定供給にも大きく資する案件（日本官民投資案件でアフリカ最大）。

⇒アフリカは、エネルギーの供給国かつ需要国。アフリカとのエネルギー協力／投資を推進し、日本のエネルギー安全保障を強化。また、積極的な官民投資を通じた脱炭素化支援も実施。

2. 具体的な取組

- エネルギー供給国及び周辺地域の安定に向け、人道支援や開発協力（インフラ整備等）を実施する。
- モザンビーク等で日本企業の貿易・投資拡大に向けたビジネス環境整備を行う。
（例）官民合同ミッションを派遣（注：モザンビーク、モーリシャスは2023年5月目処）。
- アフリカ・グリーン成長イニシアティブを推進し、脱炭素化支援を行う。
（例）JCM整備支援、脱炭素関連インフラ支援。



<モザンビークのLNGプロジェクト完成予想図>

